

絲海

編集発行 伊丹市文化財保存協会
伊丹市千僧1丁目1
TEL 0727-83-1234(内 427)
昭和58年1月1日発行 第2号



昆陽寺山門

昭和五十七年度

主要努力目標

一、文学碑の建立
わが伊丹の地は、万葉の昔から猪名野笹原、有馬山、昆陽池、猪名川など、多くの詩歌に詠みこまれ、近世は又酒の町として栄え、多くの文人墨客を迎え、俳聖鬼貫を産んだ所でもあり、たくさんの詩歌が残っています。これらの詩歌をできるだけ原典に忠実に石の碑に刻み、ゆかりの場所に建てることによって私たちの心に伊丹の文化的遺産をよみがえらせ、個性ある文化都市伊丹の街づくりに役立てようとするものです。
市当局でも散歩道等が企画

されているので、この道が「ふるさとの道」といえるようになればと思います。

二、伊丹の文化財をたずねて。改訂第六版の発行
伊丹市内の文化財を紹介する冊子を改訂発行し、伊丹市の文化財を訪ねて来られる方々の便に供したいと思えます。

三、文化財愛護少年団の育成。
現在、昆陽寺、南野、御願塚、瑞穂の四団があり、それぞれ独特の文化財を中心に、之を守りながら、市全体としての研修活動をつづけて来たのですが、今回、有岡少年団が有岡城を中心として新たに

結成されました。

各団がそれぞれ個々の活動を展開するのはもとより、市全体としての学習活動も活発にし、子供の時から文化財に対する意識を高めると共に、人間としての品性の陶冶を目標に努力しています。

四、市内文化財パトロールと保護、顕彰。

五、機関紙「絲海」の発行
伊丹市内の文化財に関する情報、会員の皆様方との交流の広場、などに利用できる機関紙の必要を痛感していたのですが、今回、約十年前に発行された「絲海」というのがわかり、このあとをついで今

回発行することになりました。
年二回位の予定です。
以上

あけまして

おめでとう

ございます

「絲海」の再刊に

よせて

伊丹市長 矢埜與一

しなが鳥 猪名野をくれば
有馬山
夕霧立ちぬ 宿はなくて
(万葉集巻第七)

一八万の人口を擁する今日の伊丹市も、万葉の時代には武庫平野のまった中の荒涼とした猪名野の原野であったわけです。そこに人々の生活が始まり、産業文化を興し、村はやがて町となり、ついに北摂の中核都市に発展してきたのであります。

この時代の移り変わりの中で、先人が刻んできた歴史の跡は、今も市内随所にかがうことができます。

しかし一方工場、住宅の増加、都市施設の近代化等々、都市開発の進展により、これら文化遺跡の破壊、散逸も余儀無くされており、これらを守り保存していくこうとする動きは年々たかまって参っております。

伊丹市におきましても、伊丹市文化財保存協会が活動をはじめすでに二十年、常に文化財、文化遺跡保存活動の要として努めて参りました。

監査
事務局長
専門委員
事務員
幹事

永長 繁治
中村 正己
久保 武茂
松本 一郎
植村 芳子
杉尾 武
大澤 欣也
坂田 敬彦
根 治



4・9 理事会

1. 田原氏建碑専門委員として就任

4・14 長浜市長浜城建設状況視察

4・16 大鹿会館前(西国街道と小浜道の交点)の道標がなくなっていたのを復帰された。



大鹿の道標

4・18 有岡城跡、伴夏子氏邸あと発掘現場撮影

5・9 行基まつり

5・27 理事会、総会議案審議。理事一部更迭。

6・7 顧問岡田利兵衛先生葬儀―王たるキリスト教会

6・10 午前中理事会、午後総会―原案可決

6・23 万葉文学碑視察のため桜井市訪問

6・27 有岡少年団結成準備会―有岡センター

7・1 柿衛句碑除幕式
岡田先生公葬

8・20 理事会

1. 文学碑建立について予定説明と協議。採用する歌、句について。2. 機関紙「緑海」の発行について。

8・25、26 少年団高野山で一泊学習会、朝のおつとめに参列 法話をきく。

9・17 理事会。1. 文学碑の進捗状況 2. 有岡文化財愛護少年団の結成について 3. その他

9・18、19 少年団リーダー研修会―野外活動センター

9・30 事務員河田広子氏退職

10・1 植村芳子事務員就任

10・7 昆陽寺へ近衛文麿植樹記念碑が三つに折れ倒れているのを見に行き―甲川氏の指摘による

10・15 理事会 会議のあと句碑の彫り上ったものを見に行く。

10・30 有岡文化財愛護少年団団旗授与式―楠セ

11・11 昆陽寺 近衛文麿公植樹記念碑の復旧

11・12 鴻池小学校PTA

11・14 昆陽寺少年団市内史跡見学

11・19 十一月定例理事

7・27 協会、高野山探訪行、涼しい高野山を歩く。



団旗授与式

11・25 協会行事、長岡宮跡等探訪行

11・28 市内少年団(三、六年生)はにわ造り実習(中央公民館)

11・29 家原寺、久米田寺を訪ずれる。

文化財愛護少年団の活動

伊丹市には日本でもユニークな活動をしている文化財愛護少年団がある。

お正月のかざり

正月になると色々な飾りが悪魔が入らないようにとの呪いとしてつけられます。お暇でしたら、ちょっと気をつけて見てはいかがでしょうか。

1. 七・五・三のわらわをたらししたもの、之に山草うらじろをつけたもの、ゆずりはをつけたものもあります。又、之を床の間や神棚、出

財愛護少年団があります。1. 昆陽寺少年団、指導者宮下忠重さん。昆陽寺を中核としています。

2. 御願塚少年団、指導者赤尾稔さん。御願塚古墳を中核としています。

3. 南野少年団、指導者河村公子さん。麦わら音頭の伝承を中心としています。

4. みずほ少年団、伊丹庵寺跡の保護にとめています。

5. 有岡少年団、指導者伊丹茂さん。有岡城跡を中核としています。

以上五団がそれぞれの文化財を中心により広い学習を進めているのです。

定期的な清掃奉仕や伝承技術の習得などはもとより文化財のもつ意味の理解のための企画が進められています。

市内の文化財めぐりは元より、神戸、大阪、京都、入口、井戸、窓などにつける家もあります。

2. ゴンボと呼ぶ太いしめなわ、太いピンと先の上ったなわに、ダイダイやその他のものをつけて門や玄関の上にかざります。

3. めがね、わらの先を縄になつて二つの輪にしたしめなわで、自転車や台所などにつける

4. 神社などのしめなわは太く長いしめなわで鳥居の二本の柱の間をはりわたす。

奈良、桜井、飛鳥などはよくかける所です。一泊学習会も実施します。このような大きな行事をするときは全団こぞっての行事にします。

団員は三年から六年までの小学生が主で、OBの人達も手伝いに来てくれます。

又文化財の学習の外に、出掛ける時は必ずゴミ袋を持って行き、ゴミは捨てて帰るようにしています。

も特長の一つだと思えます。又絶対にバス等を雇わない、必ず公共交通機関を利用することも特長の一つです。

弱く、弱く人に席を譲るといふ癖のためにもなります。

団員には必ずノートを持たせてあります。ノートをとる習慣を養います。

ここらで少し子供達の学習態度について述べてみます。

など色々変わったものがあります。池尻では窓毎にかざりがつけられており、氏神春日神社など神殿の格子窓に一杯美事につけられていました。

又、門松の立て方にもいろいろあります。池尻の春日神社では、鳥居から本殿までの参道の左右に砂盛り松の木を立てたものがならんで実に美事でした。

それぞれの地域で、家の特徴があるようです。

今年の夏季宿泊学習会は高野山で行いました。宿舎は巴陵院というお寺です。二日目の朝、和尚にお願いして朝のお勤めに参加させてもらいました。八時頃から一時間位お経が続く、あと三十分位法話をききました。その間きちんと正座して静かに聞きついでいた。脚がいたく、くずしたのは私の方でした。中にはくずした子供もいました。が、私語は一つも出ませんでした。

宿舎巴陵院に別れをつげるとき、院の奥さんが「何と行儀のよいお子さん達ですな」と洩されました。

宝蔵殿見学の時にも若い坊さんが説明をして下さったのですが、ノートをとる子や、質問する子で仲々次々へと進めません。あとから来た団体が追越して先へ行ってしまうのです。説明役の若い僧はこの熱心さに感じてか、声をはげまして時間を越えて説明してくれました。

初日の昼食は奥の院の入口でとったのです。グループに分かれましたが、終わった後何一つ残らず、きれいに片付いていました。私もこれなら大丈夫と安心しました。みんなリフレッシュに入れて持ち帰ったのです。

一月は文化財カルタ、スゴロク大会、三月末には本年度の学習の発表展覧会を開きます。

伊丹の伝説

猪名川の伝説

天平三年(七三二)に書かれた「住吉大社神代記」に記された話。

大昔、河のほとりに「やまのあたいがなが」という者が住んでいた。その河を「あがな川」と名付けた。今「いながわ」というのは訛ったものである。

住吉の神があるとき「くすしきえおとこ」の姿で現われ、能勢の方から神の宮殿を造る木材の運搬なさろうとした。

この時、いな川の女神は「えおとこ」の妻になりたと思った。

ところが西の方の武庫川の女神も同じ思いをいだいていたので、二人の女神たちは男神の愛を得ようとまごころの限りを尽した。

ついに「いな川」の女神は自分こそ正妻であると信じて嫉妬の心を起し、いな川にある大石をとって、武庫川の妾妻に投げつけ、その上憤怒のあまり武庫川の芹草(せりくさ)をすっかり引き抜いてしまった。

こうしたいいきさつで、今も「いな川」には大石がなくて、芹草ばかりが生えており、「武庫川」には大石は

かりゴロゴロしていて、芹草がないのである。……と。

伊丹をはさむ東西二河川の成立つ上流の地層の相違による河の特相をとらえて、面白いではないか。

行基伝説

小井の清水

古来偉大な人物特に宗教家には、色々な奇跡伝説が多いものだが、ここに行基に関するもの一つを紹介する。

天平九年(七三七)我が国に初めて天然痘が流行した。行基は聖武天皇の命を受けて昆陽野に一つの井を掘って天竺の無熱地獄から水を引いて加持し、その水を痘瘡病みに与えたところ忽ちにしてみな全快したと伝える。その井戸がバス停小井の内の所を少し南下がった旧道の北側にある。

石でかこい、石の蓋がしてあり「小井の清水」と刻まれている。

摂陽群談には行基水として「同郡(川辺郡)昆陽寺にあり。此水行基菩薩当山開基の時、葉師仏の靈前に於て自ら封ずるの、水なり。痘瘡を患ふもの之を求め吞ましめ、或は煎湯に用いて法薬となし之を与う。」

猪名野なる宝の山に
入りぬれば
心も清き小井の清水
(詠人不知)

と出ている。
又、撰津名所図会(河辺郡六下)には昆陽寺主水堂(しょうすいどう)と題して

「大門の旧跡の東にあり。大門旧蹟Ⅱ二(仁)王門の南一丁許にあり、今古松三十株許栽る」

伝言。聖武天皇の御宇、天平九年痘瘡異国より日本にわたり流行する事、上は王候下は庶民に至るまでこれを病まずという事なし、帝憐に思いて此病難を救う術を行基に詔したまう。

僧正みづから井を掘り給い、神通をもって天竺無熱池の水をここに遷し、秘法の加持してこれを奉る。

服する時は痘に難なく、忽ち平愈す。しかりしよりこのかた、諸民ここに来り貴賤これ服すれば痘瘡を免るもの多し。今に至って其靈験ますます新にして世に名高し。」とある。

この説にしたがって大門とおぼしき所の東側の竹藪の中をさがすと三十程平方位の正方形の石組をした井戸跡が、木の葉に埋まっていてきた。(水はたまっていないが、きれいに掘ると出るのかも知れない。)

近くに住む 滝内さんが「戦時中よくこの水を使ったが、来た人があった。よく消毒して使しなさいよ」と注意したものだ。」と話して下さった。

た行基の井は 小井の清水か竹藪の中の清水か。又は双方か。

伊丹の富

金のう絵図

一、或人の言、伊丹の地を物の形に見立てれば、袋に財を満たしめたるが如し。北にて広く、戌亥(西北)の方殊に張出し、南にては却って細し。故になづけて金囊という。

この説古人の法なる事なりというに、余謂えらく、金囊の称まことに可ならん。世の常在所に比すれば富人も多し。然れどもその風俗を見るに人に譲らぬ氣象ありて金囊の口やもすれば解けやすし。願わくは人々謙の一字を守らば、永く繁昌の地ならんかし。(有岡古統語 乾)

古い伊丹の豊かな様子が見えるようだ。同時にちよっぴり警告を発しているのも面白いではないか。

そういうしてみると、俳諧にしても、その他の芸事にしても、どんな芸の臭いがつよいようにも思える。せっぱつまっった心境が伺いにくい。

金のう絵図は昔の伊丹町の絵図のことで、本町から猪名野神社あたりが広く大阪道に沿った植松あたりが細くなっている。

冥加金

徳川家治の宝歴十一年(一七六一)米価が下落したので引上げの命が出た。大名に米の買上げを命じた(分限万石につき千俵宛)。

幕府は資金がなかったのに、伊丹の酒造家に対し百十三万両の御用金を申しつけた。

伊丹では、酒造家七一軒で半月間に調達したとある。百十三万両は今でいうと何億円位でしょうか。

次にその時の要請文を掲げます。

覚
一金五万両宛十人。一金二万五千両宛十人。一金一万五千両宛十一人。一金一万両宛三人。一金五千両宛三十七人。

米相場の儀につき其の方どもへ右御用金おうせつけられ候旨、此度江戸より小枝帯刀(みえだたて)より、小野佐太夫をもつて、御城代松平周防守殿へ おなじくおうせつけられ候によつて、右の趣申付候よう松平周防守殿より仰せいだされ候。

何れも身分に応じて御用金仰せ付けられ候儀冥加の至り、有難く畏れ奉り、御請の印形つかまつり、右の金子、来る午正月十日限り、に拙者役宅まで持参候。

以上
当時の伊丹の経済力にも驚ろきますが、お金を集め

るのに「身分に応じて御用金を仰せつけられたのは、冥加の至りだから有難く畏れ奉って持参するように」といういい方にも当時の社会情勢がしのばれます。

文化財散歩

文化財を見てまわる事はたのしい事です。文化財とは先人が残していった生活のあとのすべてだと思います。国宝、重文、県・市指定文化財もより結構です。

彫刻、絵画、建造物これらもOKです。
わが伊丹地域は御存じのように縄文、弥生の時代から人が住みつきました。

これらの跡をさぐってみるのも面白いでしょう。
それには、先ず歩くことです。車で点と点をつないでは、ほんとうの事が感じられませんか。足を土につけて歩くことです。そしてあたりをよく見ることです。

思わぬ所に思わぬものが見付かることがあります。そして独断と言われても自分の解釈をもつことです。他人の話をきいて修正していくことも勉強ですね。
文化財を尋ねて歩きましょう。

文学碑の建立

古くからの和歌、俳句等の文学遺産を散歩道の周辺にちりばめて、文化の香りたゞよう市域を創るために、文学碑をゆかりの場所に建てる事業を本年度から実施しております。

自筆、古筆を優先し、他は芸術家、文人の権威者に御願いますことにしています。

その為、全国有名図書館や所有者に依頼し、又集字法による等苦心の末、現在次の和歌、俳句をまとめ、石工の方へ出してあります。

(○印は完成し、据付けを待つものです。)

○おもしろさ 急には見えぬ ずすき哉 鬼貫

藤原良経

猪名野山

道の笹原うずもれて 落葉の上に嵐をぞ聞く 読人しらず

志長鳥 猪名野を来れば

有馬山 夕霧たちぬ 明けぬこの夜は

吾妹子に

猪名野は見せつ名次山 角の松原いつか示さむ

しなが鳥

猪名川ゆすり 行く水の 名のみよにいりて

恋わたるかも

読人知らず

かくのみに ありけるものを猪名川の 奥を深めて

我が思へりける

鬼貫

月なくて 昼もかすむや

昆陽の池

鬼貫

行水の 捨て所なき

虫の声

尚、元禄十四年、赤穂義士の一人、大高源吾が鬼貫の家に泊った時、交換しあつた句

や、その他次々にえらんで碑に刻み、六十基程建てる予定です。

穴森遺跡

ある会社の倉庫が建てられるので、事前調査が昭和五十五年十二月十四日から行われ、やよい時代の円形でまわりを溝でかこんだ墓と木棺がみつかりました。

又まわりの土地の発掘調査が五十七年二月八日から実施され、出土した木棺の中に歯が、又土塚墓には人骨が残っていました。(鳥取大学で鑑定中)

このあたりに、やよい時代すでに人が住んでいた事を証明する貴重な遺産を後世に引き継ぐため、史跡公園として保存整備をはかり、春日神社周辺の文化財を含んで歴史の散歩道をつくり、伊丹東部の

文化の振興を図りたいという構想もあります。

(所在地 口酒井穴森)

有岡城北側堀跡

五十七年七月二十日から八月二十七日にかけて、元伴夏子氏邸の跡地の発掘調査が実施されました。

この地は城の北西隅にあたるので、堀跡の形態や、残存状況を調べるためです。

三ヶ所が掘られました。1. 堀の内側に約二米巾の犬走り状の段がつくられ、中央部を深く掘り下げた箱掘りである。

2. 巾十六米、深さ地表下三・二米、深くなる部分の堀の巾は六・五米の箱型である。

3. 北東隅の方は長さ巾ともに狭く、土壘(城)側から堀底に向って地山が急にさがっている。

4. 遺物は城がなくなった後に埋め立てられたため、江戸時代以後のものが多い。(伊丹一丁目五八三)

協会探訪行

1. 高野山へ
七月二十七日(火)八時文化会館前出発、十一時三十分高野山着、巴陵院で中食、しばらく休憩、十二時四十分興

の院、杉の木立と林立する大小の墓碑の中を奥の院まで歩く。気分そう快。十三時四十分中の橋駐車場発、金剛峯寺前駐車場へ

金剛峯寺、根本大堂、六角経堂をまわる。有名な三輪の松は枯れていた。

十五時、同駐車場発、十八時三十分無事帰伊。一寸遠すぎた感じであった。

2. 長岡宮跡探訪

十一月二十五日(木)平安京に都が移る前の十年間、都のあった長岡京あとを訪ねる。種継が暗殺された島坂(西国街道)に当時の思いをほせ、石塔寺で和尚の説明をきく。

ついで筍の産地である竹林の中の道を歩き竹林公園につく。竹林を歩く、公園ですばらしさ、全く竹は美しいと思う。

編輯後記

協会の機関紙を出したい、そして会員の皆様との交流を図りたいと思ひながら、私の怠慢からついおくれてしまいました。

これからは皆様の機関紙交流の場として利用していただきたいと思ひます。

和歌・俳句・感想・昔の思い出話・何か見付けたこと、何でも編集部まで送って下さい。世の中は、だんだんきびしくなっていくようすが見えます。心の安らぎのためにも先人の暮しのあとを尋ね、安らぎの糧にしたいものです。



刊行書在庫目録

伊丹の文化財(スケッチ集) I	三五〇円
伊丹の文化財(スケッチ集) II	三五〇円
伊丹の文化財めぐり(地図と解説)	三五〇円
伊丹の年中行事	六〇〇円
伊丹の文化財カルタ	五〇〇円
伊丹の歴史	一〇〇円
伊丹城発掘報告書 II/IV	四五〇円
ふるさとをたずねて	七五〇円
	四〇〇円